



落穂集

問答

落穂集

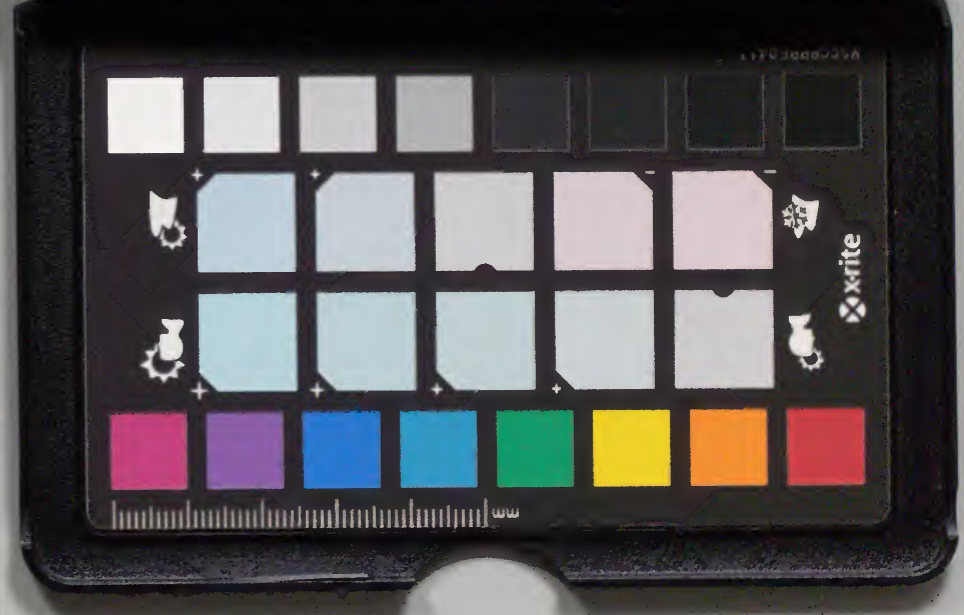
卷十一
卷十二

77
三四三
一七〇

和書
三四三

内閣文庫	
番號	和 34387
冊數	10 (1)
函號	170 77

170-77



157
257



昌平学院藏スル所ノ記録書中ニ異本
 落穂集三十卷落穂集追加十卷アリ予
 初メ異本ノ二字在ク書肆射利ノ蛇足
 ニシテ恐ラクハ落穂集追加ノ本編十
 ヲシト一日青木氏ヲ訪ラヒ其蔵書目
 録ヲ見ルニ落穂集ト題スルモノ三十
 卷アリ主人ニ乞フテ是ヲ披閱スルニ
 其書ノ碎裁毎條間卷ヲ設テ事實ノ記



170-071

載ニ殆ニト落穂集追加ノ作ニ彷彿
リ爰ニ於テ始テ其本編自ラ別ニシテ
異存ノ二字証ナラハル事ヲ知レリ惜
哉其書身一卷ヨリ身十卷ニテ佚ニ
身十一卷ヨリ身三十卷ニテ存ス然
レトモ豊大閣亮去ノ前ヨリ閑難兩役
ノ事實全ク備ヘリ曰テ主人ニ乞フテ
公務ノ餘暇是ヲ騰写ニ猶其佚卷ヲ追

補セニトス又昌平官庫ニ岩淵夜話別
集アリ是亦大道寺友山ノ記ニシテ別
集ト云時ハ必ス本編アルニキヲ知リ
搜索シテ全部ヲ得ント欲スタマレ朽
木氏ヲ訪ラセ是ヲ聞ニ岩淵夜話落穂
集共ニ其本編ハ大道寺ノ家藏ニ初ニ
テ対見シ許サストムヘリ若後又其家
ニ乞フテ全冊ヲ得ル時ハ當時ノ事見

益少十カヲニ

天保十一年庚子秋七月

村井量令識

唐徳集卷之十一

新嘉坡信託文海澤師事

同く之新嘉坡信託文海澤師事
以之
是之
上之
中自出
但之
通定書

德和殿事

一 同... 御送... 舟... 照... 以... 於...
... 舟... 以... 於...
... 舟... 以... 於...
... 舟... 以... 於...
... 舟... 以... 於...
... 舟... 以... 於...

... 舟... 以... 於...
... 舟... 以... 於...
... 舟... 以... 於...
... 舟... 以... 於...
... 舟... 以... 於...
... 舟... 以... 於...
... 舟... 以... 於...

御不疑候 石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御

御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御
御下石原守兵衛左衛門尉之御

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho) on two pages of an old book. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

日之経業用紙信及書紙の御事書憑り
此の書紙の御事書紙の御事書紙
之の御事書紙の御事書紙の御事書紙
御事書紙の御事書紙の御事書紙
御事書紙の御事書紙の御事書紙
御事書紙の御事書紙の御事書紙
御事書紙の御事書紙の御事書紙

御事書紙の御事書紙の御事書紙
御事書紙の御事書紙の御事書紙
御事書紙の御事書紙の御事書紙
御事書紙の御事書紙の御事書紙
御事書紙の御事書紙の御事書紙
御事書紙の御事書紙の御事書紙
御事書紙の御事書紙の御事書紙
御事書紙の御事書紙の御事書紙

御事書紙の御事書紙の御事書紙

東照君依河忠恕法中將經年

同くそく法依法中將法系祚籍

東照君河忠恕法中將法系祚籍

法中將法系祚籍

右法書の士述と殿中一と中將の法系祚籍

法中將法系祚籍

法中將法系祚籍

法中將法系祚籍

法中將法系祚籍

法中將法系祚籍

法中將法系祚籍

法中將法系祚籍

法中將法系祚籍

法中將法系祚籍

法中將法系祚籍

法中將法系祚籍

不知の漢も勝る程に... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...

此の中... 吾も... 吾も... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...
 ... 吾も... 吾も... 吾も...

治入新... 年... 治... 子...
到... 治... 治... 治...
何... 治... 治... 治...
七... 治... 治... 治...

在... 治... 治... 治...
年

同... 治... 治... 治...
治... 治... 治... 治...

升... 治... 治... 治...
御... 治... 治... 治...
治... 治... 治... 治...
一... 治... 治... 治...
治... 治... 治... 治...
治... 治... 治... 治...
治... 治... 治... 治...
治... 治... 治... 治...

物持はては江戶候より至り候様
此の御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度

一の御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度
御用度御用度御用度御用度御用度

訂定之客易之月法門殿之利家

此一萬一千五百の軍士之利家松平之七

等所計之志之

家康之切是十五軍及之

之在江中納云云

之新形之

法門殿之

之

之

之

之

之

本居

村

一

評

正色のふり昨日の肉をさすの
徳川殿のまゝ人許を以て此後を以て
年列輝を元身十石のふりて日一乃
と名に... 徳文之終ふ似て之性恒
下等小部... 如し又者十石...
... 少部... 播列... 一...
... 輝... 一... 輝... 一...
... 輝... 一... 輝... 一...

... 輝... 一... 輝... 一...
... 輝... 一... 輝... 一...
... 輝... 一... 輝... 一...
... 輝... 一... 輝... 一...
... 輝... 一... 輝... 一...
... 輝... 一... 輝... 一...
... 輝... 一... 輝... 一...
... 輝... 一... 輝... 一...
... 輝... 一... 輝... 一...
... 輝... 一... 輝... 一...

在廣之... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列

... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列
... 湖... 傳... 如... 列

一 國之... 農洲... 人... 知... 以... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...

一 國之... 農洲... 人... 知... 以... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...
農洲之強... 心... 以... 中... 此... 濟...

又下口之成以爲據以
上及下書卷中綱目
綱目之始中綱目家唐律中綱目之始也
右系之文書中綱目考其始也綱目
古律宗綱目也綱目之始也綱目
律律之律法綱目之始也綱目
綱目之始也綱目之始也綱目
綱目之始也綱目之始也綱目
綱目之始也綱目之始也綱目

綱目之始也綱目之始也綱目
綱目之始也綱目之始也綱目
綱目之始也綱目之始也綱目
綱目之始也綱目之始也綱目
綱目之始也綱目之始也綱目
綱目之始也綱目之始也綱目
綱目之始也綱目之始也綱目
綱目之始也綱目之始也綱目
綱目之始也綱目之始也綱目
綱目之始也綱目之始也綱目

此序之小名蓋湯の味改...
此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...

此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...
此序は山前之川流部...

予等は此の如くして此の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして

其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして
其の如くして其の如くして其の如くして

後唐の事は其の年々之を以て城を攻
むるに得ずんば其の後唐の事は其の
城を以て攻むるに得ずんば其の
城を以て攻むるに得ずんば其の
城を以て攻むるに得ずんば其の
城を以て攻むるに得ずんば其の
城を以て攻むるに得ずんば其の
城を以て攻むるに得ずんば其の
城を以て攻むるに得ずんば其の
城を以て攻むるに得ずんば其の

後唐の事は其の年々之を以て城を攻
むるに得ずんば其の後唐の事は其の
城を以て攻むるに得ずんば其の
城を以て攻むるに得ずんば其の
城を以て攻むるに得ずんば其の
城を以て攻むるに得ずんば其の
城を以て攻むるに得ずんば其の
城を以て攻むるに得ずんば其の
城を以て攻むるに得ずんば其の
城を以て攻むるに得ずんば其の

